

# 「工業高校学科再編と建築科の在り方について」

支部長挨拶文

建築士会江津支部長をしております寺下です。

本日は寒い中、多くの関係者の皆さんにお集まりいただきありがとうございます。また、本日は寒い中、多くの関係者の皆さんにお集まりいただきありがとうございます。

さて、2か月ほど前の新聞報道によりまして、江津工業高校は28年度より3学科から2学科体制となり、建築科は「建築・電気科」として、科内に建築コースが設置されるということを知りました。

江津高校と共に生徒数が減少し、将来どのようなようになるのか危惧はしていましたが、江津市にとりまして重要な教育機関であることから、市として何らかの将来構想をもって対応しているのかと思っておりましたが、本当に突然のことで驚きました。特に建築科という単体の学科が無くなるという事で建築士会としてはこのまま何もしないというわけにはいかないと思っております。

かつては「川といで湯と緑の工都」をキャッチフレーズにし、山陰随一の工業都市建設を目指してきた江津市であり、その象徴的存在でもありました江津工業高校には、石見地方一円から生徒が集まり、江津市は勿論、県西部地方の産業振興を支え続けてきており、現在もその役割は変わらないと思っております。

来春より定員削減2学科体制となるということで江津工業高校も統廃合の対象校となります。これで将来的な学校の存続さえも危惧されるのではないかと思います。

江津市においては済生会病院の医療問題、そして新聞を賑わしています突然の三江線廃止問題、そしてこの高校教育問題と全く明るい話題がありません。

建築士会という組織は政治団体ではありません。江津市における建築文化と産業の発展に寄与することも活動目標にしています。本日の建築サロンの開催は、これまで数多くの建築技術者を排出し、今後も多様なニーズに対応しながらの発展することを期待していた建築科の在り方を中心に、人口減少対策や石見地方の産業振興と工業高校の役割といった幅広い視点を持ちながら、ミニシンポジウム形式で参加者の皆さんと課題の共有を図りたいと思っております。

概ね15時を終了予定時刻としております。

最後までどうぞよろしく願いいたします。

# 「工業高校学科再編と建築科の在り方について」

～ 石見地方の産業振興と教育環境の将来は ～ 司会者用

## 【各パネラーの発表の要点】

- 江津工業高校建築科学科主任 難波富治夫 氏  
工業高校の近年の志願者減少の主な要因  
工業高校の入学者の地域的状况  
中学生の工業高校へのニーズの有無・・・ものづくりへの関心や地元志向は  
建築科の教育内容と就職動向
- 島根県議会議員 山本 誉 氏  
島根県教育委員会の高校再編の本音は  
県西部で唯一の工業高校の役割についての県の認識は
- NPO てごねっと石見理事長 横田 学 氏  
地元企業と工業高校の関係は・・・企業は工業高校生を求めているか  
産業振興とものづくり教育・・・企業誘致、産業振興と工業高校
- ポリテク島根住居環境科講師 菊池 観吾 氏  
住居環境科の現状と課題・・・志願者と求人状況  
ポリテクと工業高校の関係・・・カリキュラムの違いは  
連携強化の可能性は
- 江工会（工業高校同窓会）会長 土井正人 氏  
学科再編、規模縮小に対するOBの反応  
OB会としての学校支援の実態  
市議として：江津市の取組みは十分か・あり方検討会は形式的では

## 【課題の抽出と議論の流れ】

### ○工業高校が果たしてきた役割と今後の江津市と石見地方にとっての工業高校の必要性は

#### —建築士会の考え—

(市内においては、あらゆる業界において工業高校出身者の存在が顕著であり、工業高校がこの地域支えているということは事実であり、今後もそうあると思われる。企業誘致においても工業高校 存在意義は非常に高いのではないか。地方創生という考え方との整合も必要)

### ○中学生の「ものづくり」に対する関心を高める方法は

- ・ 中学校教育と教員の資質
- ・ 建築士会や関係団体が中学生に興味を持たせるような活動は

#### —建築士会の考え—

(中学校も学校規模が小さくなり、技術家庭といった教科に専門性や社会を熟知している教員が少ないのではないか。ものづくりに興味を持たせられるような教員がいない。もしそこに問題があるとすれば、建築士会なども出前講座や体験学習など、様々な形で積極的な協力をすべきではないか。)

### ○通学範囲が狭まるなかで、広域から「ものづくり」に興味を持ち、地域定住をも望む生徒を集める方法は

#### —建築士会の考え—

(邑智郡内の自治体では、高校の存続を自治体の存続と同一視、高校の活性化の施策としている。それに比べ、江津市の取組みはどうか。中学生を外に出さないような雰囲気もあるとは聞くが、普通科ならともかく、専門高校は別であろう。江津市として県立高校を守り育てるといった考えが欠如しているように感じる。

JRなどの公共交通の利便性を高めるのは困難であるが、江津市内はもとより市外の中学生にもより積極的なPRは必要。そこで問題となるのが魅力化の問題。)

### ○工業高校の魅力化とは

- ・ 施設・教育内容・就職・進学・地域開放・地域連携

#### —建築士会の考え—

(工業高校と同じく 15 歳から専門教育を行う教育機関に「高専」がある。20 歳までで大学工学部と同等レベルの専門教育を行っており、産業界では極めて高い評価を得ている。しかし、これも少子化のなかで質の高い中学生を集めるのは楽ではないと聞く。そんな状況においても志願者の競争率は 2 倍程度と県内では最も高い水準にある。「高専」というブランドもあるが、「女子学生の増加」「広域的な学生の募集」「中堅国立大学への容易な編入学」「2 年の専攻科設置による 7 年一貫の専門教育と容易な大学院進学」「ロボコンなどものづくり活動による社会への情報発信」など様々な努力をしているようである。このような取り組みも工業高校として大いに参考にすべきではないか。

松江高専では 1000 人を超える学生の内、4 割程度が寮生。学校管理課下の設備の整った寮の存在がその魅力の一つでもあると聞く。この寮の位置づけは単なる宿泊施設ではなく、教育施設

として位置づけられている。工業高校にも同様な施設があれば、広域的に生徒を集めた、充実した部活動や課外活動の実施も容易になるのでは。)

## 専攻科設置やポリテクとの連携強化による高度な職能技術者育成

### —建築士会の考え—

(技術の進展の伴い、3年間の専門教育で十分か。企業の求める人材を育成できているか疑問を感じる部分もある。他県の事例でいうと3カ年の本科の上に、2カ年の専攻科を設け、高専卒に近い専門知識を有する人材を育成している事例も多々ある。このような教育の高度化などの取り組みによる魅力化も考えられるが、新たな財政負担もあり、島根県ではすぐには対応できないことが想像できる。しかし、江津市にはポリテクがある。現在、工業高校とのカリキュラム的繋がり無いようであり、お互いに親密な関係でも無いようであるが、これを解決すれば新たな専攻科ではなく、工業高校+ポリテクという流れで高いレベルの職能技術者が育成できるのではないか。)

## 近隣高校との合併

### ・江津高校との合併による総合高校化

#### —建築士会の考え—

(今回、2学科体制になったことで工業高校の統廃合は避けられない状況となった。しかし、噂されるように、安易に江津高校と合併しても学校の魅力というものは高まらない。工業科と普通科を一緒にした場合、普通科が早期に衰退する恐れがあり、やがては現状と同じ高校規模に衰退する。一方、江津高校は浜田高校と合併する方法もあるのでは。この部分も並行して議論しなければ、工業高校の将来は語れないと考える。)

## 邇摩高校や浜田商業高校をも対象にした拠点的専門高校化

### —建築士会の考え—

(島根県の高校再編計画にある適正な高校規模は1学年4学級から8学級とされている。西部唯一の工業高校ということを中心に、大田・邑智・江津・浜田という広域的エリアにおける拠点的専門高校という考え方もあるのではないか。他県では〇〇商工高校、〇〇実業高校という名称もある。あくまでも工業科を主体にしながら「商業(情報)」「農業(環境)」といった分野との融合が考えられる。

その場合は当然、広域から生徒を集めることが必要となるため、充実した寮の整備は勿論、拠点的専門高校として相応しい近代的なキャンパスとしての再整備も必要となる。)

## 現状のままでの危険性

### —建築士会の考え—

- ・コース制による専門教員の削減 — 専門性が薄れ教育の質が低下→学科の復活へ
- ・部活動の衰退 — 中学生にとっては多様で活発な部活動も高校選択の重要なポイント
- ・浜田商業は既に統廃合の対象、邇摩高校も時間の問題 — 江津工業高校の機能そのものが他校に吸収される恐れもあるのでは

## ○江津工業高校の優位性は

### —建築士会の考え—

- ・多方面で活躍する卒業生の存在
- ・地元定着率の高さ
- ・交通の利便性 — 中心市街地にキャンパスが存在。江津駅前地区の再生整備がやっと進みだした江津市にとって、工業高校の衰退や他校への合併移転は、大きな痛手ではないか。現在でも利便性の高い工業高校をさらに活性化することが江津駅前の活性化に大きく寄与すると考えられる。

## ○江津市と江津市民が考えなければならないことは

### —建築士会の考え—

- ・市の存続のための県立高校の必要性・・・普通科は智翠館や浜田高校が役割を担う
- ・工業高校の衰退がポリテクの衰退、地域産業の衰退に繋がる
- ・県立だから県が考えるのではなく、江津市が明確なビジョンを描く
- ・県は江津や県西部の振興より、財政論のみで高校再編を考えているのでは

## ●シンポにおける結論

### —建築士会の考え—

- ・江津市民として、県による「なし崩し的な高校再編」への対応が必要。石見地方、江津市の活性化には絶対必要な教育施設であることを各種の団体が強く訴えることが必要。
- ・江津高校との合併の噂が事実のように聞かれるなか、工業高校あり方を専門的立場の者が深く議論する必要がある。（教育委員会だけの議論では深い議論はできないのではないか。）
- ・今回のシンポ開催の主目的は課題の共有。今後は産業界、経済界、市議会、工業高校 OB 会等のそれぞれの分野で議論を深めることに繋がることを期待する。
- ・建築士会の当面の活動としては、工業高校とポリテクとの連携の在り方を検討する。